



“ビスコーゲンKLスプレー” “オプチモール”

高温・高荷重用オイル。ViscogenKL

1. カストロール独自の技術：Optitec
2. 固体潤滑剤およびシリコン添加剤フリーのオイル
3. 製パン機、塗装ライン、コンベアチェーン、乾燥機
4. 使用温度範囲：-40℃～250℃

荷姿：400mlスプレー、20L缶



「磐高物語」 13

尾瀬の空は、眩いほど青く澄み渡っていた。朝食も早々に、テントや炊飯道具を置いて軽くなったリュックを背負って三条ノ滝を目指した。

尾瀬沼東岸から対岸の沼尻までは、モーターボートで渡った。湖面は水を打ったように静かで、時おり甲高い鳥の声が夏の爽やかな風に乗って聞こえてきた。

『こんなに静かだと、なんだか四倉の荒波の音が恋しくなんなあ』と、高瀬さんが呟くように話す。

『高瀬さん、ホームシックにかかったんであんめね』と、わたしが応えた。

そんな冗談を言い合っているうちにボートは、沼尻に着いた。皺じりの優しい顔の船頭さんが、船を下りる私たちに

『山を甘くみねえで、気をつけて行くんぞ』と、見送ってくれた。

木道を歩き、尾瀬銀座といわれる下田代十字路を経て平滑ノ滝（ヒラナメ）の展望台に着いた。

『尾瀬の旅・第三日』

眼下には、大きな石の背を幾重も乗り越えてゆく只見川の清流が白波を立てて流れていた。更に進むと、轟々と音を立て白煙を上げながら流れ落ちる三条ノ滝が見えた。

『さっきのは女性的だったけど、こっちはまさに男性的だな』と、林さんがちよっぴり大人びた話をしたので、大爆笑だった。

リーダー役の山岸さんが

『さあ、これからが本番だ。頑張るて行くぞ』と、声をだした。

来た道を少し戻り、燧ヶ岳の山頂を目指して歩いた。最初は緩やかな登りだったが、登るにつれ勾配がきつくなっていった。

五万分の一の地図とコンパスを頼りに登っていくが、段々傾斜も角度を増してきた。笹をかき分けて進むと眺望のきく尾根に出た。尾根伝いからまだ根雪が残る山頂にたどり着くと、眼下には、尾瀬沼とその向こうに広がる日光連山の雄姿が見えた。

『ヤッター、ついに登ったぞお』

☆ あとがき ☆



名古屋に出張した折、念願だった“犬山城”を訪ねることが出来ました。日本最古（1537年築城）の国宝でもあるお城は、美しさと威厳に満ちていて特に木曾川の畔から眺める雄姿はわたしの心を満たしてくれました。

帰りの新幹線の中で、次は彦根城にしようか四国の松山城かそれとも修復なった姫路城か、そんなことを夢見ながら寝入っていました。